



# キーパーソン、語る

Special Interview

このコーナーでは毎月1回浜松をリードする人物の横顔に迫ります。  
今回は今年創立80周年を迎えた聖隷福祉事業団の理事長・山本敏博さんです。

「やりたいこと」は何でも実現させたい

## 危機脱出の鍵は チームワーク

生まれは横須賀ですが、物心ついたときは富士に、小学3年で沼津に転校しました。父はもともと海軍の衛生関係の仕事で、母は看護師。沼津に来てからは薬屋をやっていたんですが、私は未収金の回収を手伝っていました。そこで集めたお金が私の小遣いになって。ここが各種の人格形成の場になりましたね。どっかわいく攻めればお金を払ってもらえるか、知恵を絞ったものです(笑)。

モットーは「現場主義」。机に座っているのは大嫌いなんです。何かあれば自分で車を運転して、すぐに現場へ駆けつけちゃう。薬剤師のほかに検査技師、放射線取扱主任者との3つの資格を持っているから、専門的なことも理解できるし、具体的な意見も出せるんですよ。現場スタッフが「やりたい」といったことは何でも実現させたいと思っています。苦労してもやる意義があるものであれば、採算度外視ですね。

もちろん危機もありました。35歳で聖隷浜松病院の事務長になりましたが当時は過大投資による大幅な赤字で倒産の危機。そこで単なる経費削減ではなく、業務改善や新たな設備投資を行ったんです。CTなど最新機材を導入することで、経費だけでなく患者様への負担も減らそうとしました。これをドクターや事務方と力を合わせて行うことで、2年後には大きな黒字に転換。チームワークの大切さを実感しましたね。自分ひとりじゃ絶対にできないことだったと思うし、このことが聖隷の運営管理の伝統として今でも残っています。

## 一人の人間として 子どもに接する

子育てに関して、子どものやりたいことをやらせるのが基本的な方針。でも、本当に困ったときは面倒を見ます。大事なのは子どもを一人の人間として認めること。そうすると自然と親

を尊敬するし、自立もするようになります。妻や娘に対しても、ちょっとした気遣いくらいはしてきたかな。風呂上がり裸でうつろうようなことはしませんでしたよ(笑)。  
今でも家族そろって旅行へ出かけます。子どもたちの家族もくるから大家族10人ぐらいで。家庭円満の秘けつは、親が愚痴をいわないことかな。私は仕事第一でやってききましたが、妻は子どもたちにそんな私の悪口を一切いわなかった。「自分たちが好きなことできるのはお父さんのおかげなんだよ」と言い聞かせたんです。

## 社会福祉法人 聖隷福祉事業団 第5回 理事長 山本敏博さん



### Profile

1945年神奈川県生まれ。静岡薬科大学(現静岡県立大学薬学部)卒。1968年より聖隷保養園(現聖隷福祉事業団)で薬剤師として勤務。資材課、事務長などを経て、2000年理事長就任。家族は妻と息子二人、娘一人。趣味のゴルフと油分を控えた食生活が元気の秘密。

## 健康サポートから 地域づくりを応援

浜松は非常に医療レベルが高い地域。聖隷のほかに浜松医大や西部医療センター、遠州病院、日赤など大病院がたくさんあって、それらが機能を分担している。救命救急センターが市内に3つもあるなんてすごいことです。それだけでなく、大病院と近隣のクリニックが連携を図り、医療充実の

基盤を作っている。アクセスの利便性も含めてこれだけの医療を受けられる地域はほかにありませんよ。このことをもっと外にアピールしていくべきだと思います。

「やらまいか精神」もいいですよ。この地にはいろいろなものを受け入れる土壌があって、何かやろうとするとみんな集まってくる。ただ、全体を見る力が足りない気はします。意見を出し合って物事をまとめていく文化が弱い。これだけの都市で街中の元気がな

いのもさみしいですよ。市民感覚を反映した街づくりをしていく必要があると思います。

今、やりたいことは医療や福祉の側面から地域づくりを応援していくこと。人が集まるには必ず健康面でのサポートが必要になります。浜松は医療従事者が多く集まってくる街。その人たちをどう育成し、この地で働いてもらうかを考えるのはとても大切なことだと思っています。

(聞き手/編集室 鈴木淳博)